

Stanyl® TS341

1. 化学物質等及び会社情報

製品名	: Stanyl® TS341	
製品コード	: WW48228	
製品タイプ	: 固体。	
供給者	: DSM Engineering Plastics Europe P.O. Box 43, 6130 AA Sittard The Netherlands	DSM Japan Engineering Plastics The Front Tower Shiba Koen, 6 – 8th Floor 2-6-3, Shiba Koen Minato-ku, Tokyo 105-0011 日本
	DSM Engineering Plastics Americas 2267 W. Mill Road Evansville, IN 47720 USA	
	DSM Engineering Plastics Asia Pacific 476 Li Bing Rd, ZhangJiang High-Tech Park Pudong Shanghai, 201203 P.R.China	DSM Engineering Plastics India Pvt Ltd F 40 MIDC Industrial Area Ranjangaon Pune 412220 インド
緊急電話番号	: オランダ: +31 (0)46 476 55 55	日本: +81-3-5404-8340
本SDS担当者の電子メールアドレス	: Info.Worldwise@dsm.com	
推奨使用法	: プラスチック製品	

2. 危険有害性の要約

GHS分類	: 分類されていない。
GHSラベル要素	
注意喚起語	: 注意喚起語なし。
危険有害性情報	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
注意書き	
安全対策	: 該当せず。
応急措置	: 該当せず。
保管	: 該当せず。
廃棄	: 該当せず。
分類されていない他の危険有害性	: データなし。

留意点 : 漏出薬品で足を滑らせる危険性。加熱された物質は火傷を引き起こすおそれがある。この材料の除荷または処理時に帯電が起こる場合がある。必要に応じて、静電放電に対する予防措置を講じる。製品を正常に使用することにより健康に有害な影響が出る可能性は非常に低いと考えられる。製品に二次処理を行う場合は適切な予防措置を講じるものとする。使用者の作業によって粉塵、ヒュームあるいは噴霧が発生する場合、換気装置を使用し、空中浮揚の汚染物質濃度を暴露限界以下に保つようにする。粉塵により機械的刺激が生じることがある。

3. 組成及び成分情報

物質/製剤	: 混合物
化学物質を特定する他の方法	: データなし。
化学薬品の説明	: ベースポリマー: ポリアミド46; CAS番号: 50327-22-5, alternative 50327-77-0
CAS番号/他の特定名	
CAS 番号	: 該当せず。
ENCS 番号	: データなし。
ISHL 番号	: データなし。

提供者の現在の知識の範囲および該当する濃度では、本製品の成分の中には健康または環境に対して有害危険性であると分類されるためこのセクションで報告が義務づけられている成分は含まれていません。

- 留意点** : この製品の成分は不浸透性ポリマーマトリックスに組み込まれるため、生物学的に利用されない。有害成分はポリマーマトリックスに固定されるため、曝露リスクは正常な処理および取り扱いの条件下ではごくわずかである。この製品に含まれる添加剤は、処理中に遊離しなければ(溶融によるヒューム、粉塵)健康に対するリスクはない。(吸入性)粉塵およびヒュームへの曝露を防ぐため、適した工場衛生対策を実施するものとする。(溶融)ヒュームへの曝露は、適した換気装置を用いてできる限り制限する。二次処理で生じる粉塵およびヒュームは気道および皮膚に対する刺激性を示すことがあり、潜在的有害性を持つとみなすものとする。使用者の作業によって粉塵、ヒュームあるいは噴霧が発生する場合、換気装置を使用し、空中浮揚の汚染物質濃度を暴露限界以下に保つようにする。

職業性暴露限界がある場合、セクション8に記載されている。

4. 応急措置

応急措置

- 吸入した場合** : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。症状が現れたら、医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合** : 水で口を洗浄する。空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。物質を飲み込んだ場合、被災者の意識があれば少量の水を飲ませる。医師の指示がない限り、吐かせてはならない。症状が現れたら、医師の診断を受ける。
- 皮膚に触れた場合** : 多量の水で、汚染された皮膚を洗浄する。汚染された衣服および靴を脱がせる。症状が現れたら、医師の診断を受ける。
- 目に入った場合** : すぐに多量の水で、時々上下のまぶたを持ち上げながら眼をすすぐ。コンタクトレンズの有無を確認し、着用している場合にははずす。炎症が生じた場合、医師の診察を受ける。
- 応急措置をする者の保護** : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。
- 医師に対する特別注意事項** : 症状に対応した対処療法を行うこと。大量に摂取あるいは吸引した場合は、直ちに毒物治療の専門医に連絡する。

健康への影響と症状の詳細については、セクション11を参照。

5. 火災時の措置

消火剤

適切 : 火災に応じた消火剤を使用する。

不適切 : 認知済みのものは無し。

特定の危険有害性 : 特定の火災爆発の危険有害性はない。

有害な熱分解生成物 : 明確なデータは無い。

消火を行う者に対する注意事項 : 火災が発生したら、すみやかに火災現場から人員を退避させ現場を隔離する。人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。

消防士用の特殊保護具 : 消防士は適切な保護器具と、陽圧モードで動作するフルフェース部分を備えた自給式の呼吸器具(SCBA)を装着しなければならない。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。周辺地域の人々を避難させる。関係者以外ならびに保護用具を着用していない作業員の入室を禁じる。漏出した物質に触れたり、その上を歩いたりしてはならない。適切な個人保護装置を着用する。

環境に対する注意事項 : 漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。製品が環境汚染(排水、水路、土壌または大気)を起したときは、関係する行政当局に報告する。

封じ込めおよび洗浄に関する方法および材料

少量流出 : 漏出区域から容器を移動する。物質を吸い取るか拭き取り、ラベル表示した廃棄容器に収容する。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。

大量流出 : 漏出区域から容器を移動する。下水溝、水路、地下室または密閉された場所への侵入を防止する。物質を吸い取るか拭き取り、ラベル表示した廃棄容器に収容する。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。注意: 接触時の情報はセクション1を、廃棄処理はセクション13を参照して下さい。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 安全に取扱うための注意事項** : 適切な個人保護具を使用すること(セクション8を参照)。本物質の取扱い、保管、作業を行う場所での飲食および喫煙は厳禁。作業者は飲食、喫煙の前に手を洗うこと。飲食区域に入る前に汚染した衣類と保護具を脱ぐこと。
- 安全に保管するための注意事項** : 現地法に従って保管する。元の容器に入れ、換気の良い乾燥した冷所で直射日光を避け、混合禁止物質(セクション10を参照)および飲食物から離して保管する。使用直前まで、容器は固く閉め封印して保管する。いったん開けた容器は入念に再密閉し、漏出を防ぐため直立させて保管する。ラベルのない容器に保管してはならない。環境汚染を避けるために適切な容器を使用する。
- 留意点** : 落下の危険があるため、パレットは決して3段以上積み重ねない。大袋は積み重ねてはならない。パレットは通路沿いに積み重ねない。

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度

職業暴露限界

なし。

推奨される測定方法

: 当製品が暴露限界を有する物質を含む場合、個人、作業場の空気、あるいは生物学的なモニタリングを行い、換気等の管理手段の有効性、および呼吸器保護具を使用する必要性、あるいはそのいずれかを明らかにする必要がある。

適切な技術的管理

: 特別な換気設備は必要ない。全体換気装置は作業者が暴露される空中浮遊物質濃度の管理に十分なものを使用する。もしこの製品が暴露限界を有する成分を含有する場合は、工程の密閉、工程ごとの排気設備、あるいはその他の工程管理対策を用いて作業者の空気中の汚染物質への暴露を、推奨あるいは規制された限界以下に保つこと。

環境暴露管理

: 換気装置および作業工程装置からの排出物を検査し、環境保護の法律規制の要件に適合していることを確認しなければならない。場合によっては排出物を許容レベル以下に下げのために煙霧清浄機やフィルター、あるいは行程装置の技術的改良が必要になることもある。

個人の保護措置

衛生措置

: 化学製品の取り扱い後は、食事、喫煙およびトイレの使用前および作業時間の最後に、必ず手、前腕および顔を洗う。汚染された可能性のある衣類を取り除く際には、適切な技術を用いる。汚染された衣類は、再着用の前に洗濯する。作業場所の近くに洗眼スタンドと安全シャワーが設置されていることを確認する。

呼吸器の保護具

: リスク評価により必要性が示されたときは、承認された基準に合格した、身体に良く合った空気清浄機能付きまたは給気式の呼吸保護具を使用する。使用する呼吸保護具は、既知もしくは予測される暴露量、製品の危険有害性、選択される呼吸保護具の安全作動限度に基づいて選択しなければならない。

手の保護具

: リスク評価によって必要とされるときは、化学製品の取り扱いの際、承認された基準に合格した耐化学品性で不浸透性の手袋を常に着用する。

目の保護具

: リスク評価によって必要とされるときは、液体の飛まつ、ミスト、ガスあるいは塵埃への暴露をさけるため、承認された基準に合格した安全眼鏡を着用する。

皮膚の保護

: 作業者の身体保護衣は、行う作業の内容および関連するリスクに基づいて選択しなければならず、さらにこの製品を取り扱う前に専門家の承認を受けなければならない。

9. 物理的及び化学的性質

外観

- 物理的状态** : 固体。[顆粒、ペレット]
- 色** : 天然では不透明、添加した顔料による
- 臭い** : データなし。
- 融点** : 295° C (563° F)
- 引火点** : 密閉式: >375° C (>707° F)
- 比重** : >1
- 溶解度** : 以下の物質に不溶性: 冷水。
- 分解温度** : >350° C (>662° F)
- 自己発火温度** : >420° C (>788° F)
- 粘度** : データなし。

10. 安定性及び反応性

化学的安定性	: 製品は安定である。
危険な反応の可能性	: 通常の貯蔵および使用条件下で、有害な反応は起こらない。
避けるべき条件	: 明確なデータは無い。
混触危険物質	: 明確なデータは無い。
危険有害な分解生成物	: 通常の保管及び使用条件下では、危険な分解生成物は生成されない。
留意点	: 加工温度で、ある程度の熱劣化が起こることがある。セクション5を参照。

11. 有害性情報

最も重要な健康への影響

起こりうる急性毒性

吸入した場合	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
飲み込んだ場合	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
皮膚に触れた場合	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
目に入った場合	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。

健康への慢性効果の可能性

概要	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
吸入した場合	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
飲み込んだ場合	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
皮膚に触れた場合	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
目に入った場合	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
発がん性	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
変異原性	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
催奇形性	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
発育への影響	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
生殖能力に対する影響	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。

物理的・化学的および毒物学的な特性に関連する症状

吸入した場合	: 明確なデータは無い。
飲み込んだ場合	: 明確なデータは無い。
皮膚に触れた場合	: 明確なデータは無い。
目に入った場合	: 明確なデータは無い。

急性毒性

データなし。

慢性毒性

データなし。

刺激性/腐食性

データなし。

感作性

データなし。

発がん性

データなし。

変異原性

データなし。

催奇形性

データなし。

生殖毒性

データなし。

特定標的臓器／全身毒性(単回暴露)

データなし。

特定標的臓器／全身毒性(反復暴露)

データなし。

呼吸に対する危険有害性

データなし。

急性毒性推定値(ATE値)

データなし。

留意点 : この製品の成分は不浸透性ポリマーマトリックスに組み込まれるため、生物学的に利用されない。製品を正常に使用することにより健康に有害な影響が出る可能性は非常に低いと考えられる。

12. 環境影響情報

生態毒性 : 重大な作用や危険有害性は知られていない。

水中毒性

データなし。

残留性/分解性

データなし。

生物濃縮の可能性

データなし。

土壌中の移動性

土壌/水分配係数(K_{oc}) : データなし。

移動性 : データなし。

その他の悪影響 : 重大な作用や危険有害性は知られていない。

留意点 : この製品は生分解せず、水生生物に対する毒性はない。この製品の成分は不浸透性ポリマーマトリックスに組み込まれるため、生物学的に利用されない。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法 : 廃棄物の発生は避けるか、あるいは可能な限り少なくする必要がある。大量の老廃物質残渣は、下水設備を通して廃棄してはならず、適切な廃水処理施設で処理しなければならない。余剰またはリサイクルできない製品は許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処理する。この製品、製品の溶液およびあらゆる副生成物の処分は、常に環境保護および廃棄物処理に関する法律の定める要求事項、および現地法の定める要求事項に従わなければならない。不要な包装材料は再利用しなければならない。焼却または埋め立ては、再利用が不可能な場合にのみ検討すべきである。この材料およびその容器は安全な方法で廃棄しなければならない。空の容器や中袋に製品が残留している可能性がある。漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。

14. 輸送上の注意

適用法令	国連番号	輸送固有名	クラス	PG*	ラベル	追加情報
IMDGクラス	規定なし。	-	-	-		-
IATA クラス	規定なし。	-	-	-		-

PG* : パッキンググループ

15. 適用法令

日本の管理法令

消防法 : データなし。 指定数量 : データなし。

毒物及び劇物取締法

記載された成分なし。

海洋汚染および海洋災害防止法 : データなし。

危険物の海上運送規制に関する通達 : データなし。

データなし。

航空法 : データなし。

化学物質排出把握管理促進法(PRTR) : 非該当

道路法 : データなし。

日本産業衛生学会 発がん性物質 : データなし。

労働安全衛生法 - 名称等を通知すべき危険物及び有害物 : 非該当

特別管理産業廃棄物リスト : 非該当

化審法 (監視、特定化学物質)

データなし。

生分解性 : データなし。

魚に蓄積した化学物質の濃度 : データなし。

日本インベントリ : 未確定。

その他の規定 : データなし。

製品特有の安全、健康および環境に関する法規 : この製品(その成分を含む)に適用される可能性のある特定の国および/または地域の規則は知られていない。

16. その他の情報

ヒストリ

印刷日 : 2/10/2012.
発行日/改訂版の日付 : 2/10/2012.
前作成日 : 前もって確認されていない

バージョン : 1

情報 : DSM Engineering Plastics BV, Global Research & Technology Department
Product Data Management
P.O. Box 604, 6160 AP Geleen
The Netherlands, Europe
Phone +31(0) 46 4760269 / 4767411, Fax +31(0) 46 4760796
E-mail: productdatamanagement.dep@dsm.com

MSDS:
DSM Expert Center BV/ Product Safety
P.O. Box 6500, 6401 JH Heerlen
The Netherlands, Europe
E-mail: info.worldwide@dsm.com

参照 : データなし。

前バージョンから変更された情報を指摘する。

注意事項

製品安全データシート(MSDS)に記載の情報は、発行日の時点で入手できた資料に基づくものです。ご使用者のリスク管理にお役立ていただくことを目的としていますが、製品の品質に関する保証または仕様を提供するものではありません。製品を他の物質と化合させる場合や特定の用途については、この情報の全体または一部が適用できないことがあります。ご使用者の責任において、適切な防護措置を講じ、製品の意図する用途に関して適当かつ十分なデータがあることをご確認ください。ご不明な点がある場合には、販売店または専門家に相談されるようお勧めします。